

教育全国署名がスタート すべての学校から集約を 子どもたちの成長や発達が保障され せんせいがいきいきと働くことのできる学校を！

夏休みが終わって一ヶ月が経過しました。今年の夏も、夏休み前からの異常な暑さの中で、外で遊ぶことも、体育の授業をすることもままならない状態が続き、教職員も、子どもたちも疲労とストレスがたまる日々でした。エアコンが設置されていない特別教室で、汗だくになりながら理科や技術、家庭科、美術などの授業が行われました。「使用頻度が低い」などの理由で

エアコン設置は
急務です

特別教室と体育館のエアコン設置は遅々として進みませんが、昨今の気象状況を考えれば、学習環境としても、労働環境としても、災害時の避難所としても、我慢の限界を超える実態です。

7月28日に発生した熊本地震の際にも、体育館にエアコンがなく、避難所として機能しないことが大きく取り上げられました。「予算がない」などと言っている場合ではありません。「教育に予算を」の声を大きく挙げるべきです。



全ての分会から 署名の集約を！

ゆきとどいた教育をすすめる教育署名がスタートしました。小・中学校、高等学校の35人以下学級の前倒し実施、教育費の保護者負担の軽減、返済不要の「給付制奨学金」創設、子どもと直接向き合う教職員の増員、特別支援学校の過大・過密の解消などが重要な課題です。

署名項目やチラシを読み合うだけでも学習になります。職場に私たちのとりくみを知らせましょう。職場で全教職員に家族含めての署名を呼びかけましょう。保護者・地域へも署名預けをおこないましょう。12月の県議会に、2月に国に提出します。一次締め切りを11月末にします。すべての分会からの集約をめざします。みなさんの職場での奮闘をお願いします。

あらくさ

「この歌を聞いてほしい 戦争をやめてほしい」と始まる平和を願う歌「わたしの願い」。3年前、小学校の音楽室で生まれた歌。作者のMさんは、現在6年生。「わたしの願い」は、3番まで歌詞が作られた。そして、昨年に続き、今年の8月も「原水爆禁止世界大会」の大きなステージで、作者本人によって歌われた。2番からは「広島合唱団」が加わった。混声合唱の深い響きと共に、力強いメッセージが会場に響き渡った。

その前日、Mさんとこんなやりとりをした。3年前の4月、どうして登校中にこのような歌を作ったのかと聞くと彼女は「朝のニュースで、戦争で街が爆撃を受けて焼け野原になっている写真を見ました。それを見て、私は78年前のヒロシマの写真だと思ったんです。『これ、昔のヒロシマ?』って聞いたら、お母さんが『違うよ、今起きていることよ』と教えてくれた。『平和のために何か自分ができることはないかな』と言ったら、お母さんが『自分の得意なことでお母さんがいんじゃない?歌を作るとか』それで、家を出てから、学校に着くまで、通学路を歩きながら、歌詞を考えたんです。」

子どもたちは、私たち大人が思う以上に、いつも真剣に考えている。そして、未来を創り出す可能性に満ちている。私たちも、焦らず、諦めず、前に進みたい。(U)

広島県のゆきとどいた教育をすすめるスタート集会

どの子も自分が希望する学校で お金の心配なく学べる社会の実現を！



開会の挨拶を述べる佐藤会長

「広島県ゆきとどいた教育をすすめる会」は8月29日に教育署名スタート集会を開催しました。「すべての子どもたちにゆきとどいた教育を」をテーマとした集会には、教職員、父母等35名が参加しました。開会の挨拶で佐藤会長からこの運動を行う原点を確認すべきとの提起があり、①保護者の教育費（授業料含めて）負担がどんどん増えている。②憲法9条がある国で軍事予算が急増している。③学生の貧困化が深刻になっている。との3点を指摘しました。

出する中での再編統合は、学校教育や地域を壊す」と指摘しました。

また、ひろしま通信制懇談会の松田さんは、「割の子どもが通学している通信制高校の実態を報告。行政からの助成が低いことなど公的補助の全日制との格差の是正の必要性を強調しました。

広私教の小林さんからは、高校無償化の問題点や教職員の労働条件悪化の課題が指摘されました。最後に、全教広島支部さんから「軍事拡大でなく、子どもと教育にお金を回す」政治の実現に向けての今後の課題等の報告がありました。

軍事費削って 教育にまわせ

その後の意見交流では、「私学と公立を対立的にとらえていてはゆきとどいた教育は前進しない」「県立高校の施設は極めて劣悪、トイレは未だに和式トイレが多く、体育館の空調は緊急の課題」「通信制高校の実態を初めて知った、共同の取り組みを広げたい」「先生や保護者、市民



県教委への要請のあとの街頭宣伝

教組共闘 中国ブロック 県教委へ要請 & 街頭宣伝

などが力を合わせて署名をすすめたい」「あきらめず声をあげ続けることが重要」「どの子も自分が希望する学校でお金の心配なく学べる社会をつくりたい」などの発言がありました。

最後に全教広島松石執行委員長から「国の予算の使い方が間違っている。署名を広げて軍事費削って教育への世論と運動をひろげよう」と閉会の挨拶を行いました。

教組共闘中国ブロック協議会は、8月24日に県教委に対して、「ゆきとどいた教育と進路保障を求める要請」を行いました。全教から山本乃里子中央執行副委員長が参加しました。山口高教組の石田委員長、岡山高教組の村田委員長の参加もあり、7名での要請行動となりました。

「小・中学校、高等学校での20人学級を展望した少人数学級の実現を国に要請すること」「体育館とすべての特別教室にエアコンを設置すること」「全ての学校に、生徒用・教職員用の洋式トイレ・多目的トイレを設置すること」「増加している定員内臨採を解消する施策を具体化すること」「今後の県立高等学校の在り方に係る実施計画」を抜本的に見直し、地元の高校で安心して学べるように、学校を存続させること」等の要請を行いました。県教委は松田秘書広報室長以下、施設課や教職員課、豊かな心と身体育成課、教育支援推進課、教育改革課、高校教育指導課など10名が対応しました。

県教委への要請の後、広島市の八丁堀交差点で、ゆきとどいた教育をすすめる街頭宣伝をおこないました。これには、広島市教組（全教）の仲間も加わり、チラシ二〇〇部を元気に配りました。

子どもと教職員の ため市長に要望をあげよう！

呉市教委交渉



交渉に臨む胡谷、大當両氏

全教広島海田支部は、8月26日に、今年度一回目の呉市教委交渉を行いました。海田支部から胡谷呉支区長、大當執行委員が参加。市教委からは、細川課長補佐、森協管理グループ主査、宮内管理主事の3名が出席しました。

組合からは、過日の「総合教育会議」で教職員の働き方改革の新しい方針が呉市長に説明された内容についての

議論。通級指導の実態と課題について、教育の無償化に係る課題、不登校対策等について要求しました。「呉市いじめ防止基本計画」や「呉市の働き方改革の取組方針」についても、校長や関係教員のみで周知ではなく、すべての教職員への周知、研修等で深めるよう要求しました。今回の交渉では、諸要求だけでなく、市長と教育委員会との合同会議である「総合教育会議」の様子にも触れながら、もっと市長に要望を強く上げてほしいと求めました。

「こんなものいらない!!」

アンケート



×切10月末
賃金署名とあわせて
ご協力を

ハラスメントへの感度を高めよう！

広島市教委交渉



左が市教組(全教)、右が市教委各課課長ら

9月2日、APエルテージ国泰寺ビル4階教育委員会にて、今年度の市教委交渉が実施されました。6月12日に提出した教育要求書に対する市教委からの回答をもとに、約2時間、重点をのべて議論が行われました。市教委からは宅見学校教育部長以下、10名の課長らが出席しました。多忙な中、市教組(全教)からは会場いっぱいのおよそ30名が駆けつけ、それぞれの立場で学校現場の実態や、改善してほしい要求などを訴えました。

「休憩時間を確保するための具体的な指示の徹底を」「夏季休業中、まとまった休暇が取れる研修日程に」「主務教諭の制度化に反対！現場の実態に柔軟な対応を！」「旅費制度の簡素化を！」「ハラスメントに対する感度を高める対策を」「部活動指導員の配置が教職員の負担軽減につながっているのか」「ICT支援員の全校配置を」「特別支援学級を教員の配置基準に含めよ」「特別支援指導員の増員を」「物価高に見合った学校予算の増額を」などの要求で、市教委と議論しました。

教育のつどいヒロシマ 2026

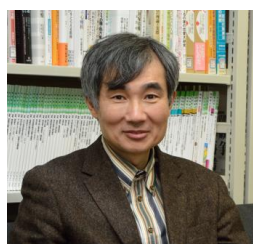
【11月14日(土)】

記念講演：楠 凡之さん

(北九州市立大学名誉教授)

【演題】すべての子に学ぶ喜びを
～子どもたちの多様性を活かした

学びを築いていくために～



【楠さんプロフィール】

1960年生まれ。専門は臨床教育学。最近の著書として『虐待とトラウマの世代間連鎖を乗り越える』(共著、高文研)『感情コントロールに苦しむ子ども 理解と対応』(共著、高文研)、『あの子はなぜ荒れるのか 発達障害・アタッチメントとトラウマインフォームドケア』(共著、高文研)など。現在は、①ACEs(逆境の小児時体験)を克服する生活指導実践、②スローラーナー(ポードライン知的機能)の問題にライフワークとしてとりくんでいきたいと考えている。

10:00～12:30	13:30～16:00	17:30～20:00
問題別分科会	教科別分科会	全体会・記念講演
広島市・広瀬小学校		広島ロードビル・大会議室 & オンライン

★みんなでレポート(A4版一枚)をもって参加しましょう。

県人事委員会交渉

現場の実態を反映させ
教職員はげます勧告・報告を



手前が全教広島 奥が県人事委員会

9月10日に全教広島は、広島県人事委員会と人事委員会勧告へ向けての第1回の交渉を持ちました。参加は船石委員長、胡谷副委員長、中本書記長、武本海田支部長の4名。県人事委員会

の合同総務課長、公務員課長が対応しました。人事委員会は、公務員の労働基本権が制約されていることの代償措置として設けられており、職員にとって重要な勤務条件改善のための機関です。しかし、実態は「社会一般の情勢に適応させる」という言い方で私たちの要求が斥けられてきているという側面もあります。引き続き、学校現場の実態や、教職員の働き方に関わる切実な要求を届け、勧告・報告に反映させるとりくみを重視することが必要です。

交渉の議論は、昨年6月に成立した改定給特法等や8月7日に出された人事院勧告をにらみつつ、若年層はもとより、中高年層や定年延長・再任用、会計年度職員を含めたすべての教職員の賃金引き上げや待遇改善等について、8月29日に提出した重点要求書をもとに進められました。主な論点は次の通りです。

○すべての世代にわたる賃金の底上げとなる給料表の改定。
○特別支援教育に係わる教員の「給料の調整額」の半減に反対。
○通勤手当、地域手当、配偶者に係る扶養手当等の改善、減額ストップ。
○学校現場の分断につながる、義務特手当減による担任加算や「主務教諭」の創設に反対。
○学校現場の「限界」とも言える労働実態の改善のための具体的な提言を求める。

今年度は県人事委員会の勧告は10月6日です。全教広島は、10月5日に第2回目の交渉を設定しています。今回の交渉で船石委員長は、「私たち教職員も、家庭と仕事を両立させて人間的な生活をしたと望んでいる。今の仕事の量をどう解決していくかについてしっかり考えてほしい」と述べ、学校現場の労働実態の改善のための努力を要請しました。

「キッeことあるよ♡キャンペーン」 Part2

2026年10月～2027年1月限定！



共済紹介者に
キッカット 30コプレゼント！
＜個包装＞

さらに！！

期間中の加入者・紹介者 20 名の方に

プリンスホテル
豪華ランチツアーご招待

2027年
2月20日(土)



全教広島共済会
広島市東区光町2-9-24-403
TEL:082-264-7851 FAX:082-261-1912

10月から新キャンペーン スタート

職場で声かけする
組合員に
元気になってほしい！

10月からは、「キッeことあるよ♡キャンペーン」2を開始します。今回は、職場で組合・共済をお勧めしている組合員のみならず、皆さんに元気になってほしいという思いを込めて、組合・共済の加入があった場合、紹介者にキッカットを30個プレゼントするという企画にしました。

ぜひ職場で加入対話にとりくみ、大量のキッカットをゲットしてください。ゲットしたキッカットを職場で振る舞えば、そこからまた加入の輪が広がるかも。

2月のプリンスホテルランチツアーの抽選対象にもなっています。みなさん、ふるってキャンペーンへの参加をお願いします。